

瑞穂市

まちづくり市民ワークショップ等報告書

2024 年 11 月

株式会社ぎょうせい

目 次

まちづくり市民ワークショップ	1
1. 実施概要	1
2. ワークショップの実施内容	1
3. ワークショップの実施風景とアウトプット	2
朝日大学まちづくりワークショップ	7
1. 実施概要	7
2. レゴブロックを使ったグループワークの実施内容	7
3. レゴブロックを使ったグループワークの実施風景とアウトプット	8
4. ワークショップの実施内容	15
5. ワークショップの実施風景とアウトプット	16
みずほ未来プロジェクト中間発表	22
1. 実施概要	22
2. 各校の参加者において関心が持たれている事項	22

まちづくり市民ワークショップ

1. 実施概要

(1) 開催日時

令和6年9月29日(日) 午前10時～12時

(2) 開催場所

市民センター 大ホール

(3) 参加者

無作為に抽出した市民500名に対し参加案内を行い、15名の申込があった。その後、欠席連絡等があり、当日の参加者は12名であった。

(4) 実施項目

- ・市長挨拶
- ・瑞穂市を取り巻く状況についての説明
- ・市民アンケート結果の説明
- ・ワークショップの実施
- ・作成されたアウトプットの発表・共有

2. ワークショップの実施内容

(1) テーマについて

ワークショップでは、4名で構成された3つのグループにおいて、それぞれ割り当てられたテーマに即して意見が出されました。具体的なテーマは以下のとおりです。

■グループ1

自慢したくなる瑞穂市、10年後の姿をイメージしてみよう
—生活等の環境（安全・安心、利便性等）—

■グループ2

自慢したくなる瑞穂市、10年後の姿をイメージしてみよう
—福祉、コミュニティ、健康—

■グループ3

自慢したくなる瑞穂市、10年後の姿をイメージしてみよう

—教育（学校・家庭・社会）文化—

（2）進行方法について

ワークショップでは、リーダー役、書記役を決め、リーダーによる進行のもと、付箋紙及び模造紙を使いながらアウトプットを作成しました。

作成されたアウトプットについては、発表役の方が皆の前で発表、他のグループメンバーは、発表を聴いた後、印象的であった内容に丸型のシールを貼り付けてもらいました（各グループのアウトプットにつき、一人あたり2枚ずつ貼ることができるルールとしました）。

3. ワークショップの実施風景とアウトプット

ワークショップの様子



アウトプット発表の様子①



アウトプット発表の様子②



「自慢したくなる瑞穂市、10年後の姿をイメージしてみよう」

生活等の環境（安全・安心、利便性等）

●ゴミ問題

- ・ 空き家が増えるとゴミ放置・虫の発生・治安悪化→子どもの教育要。 [5]

●公共交通

- ・ 交通の便は高齢者にとっては悪い。足がないから。
みずほバス 本数時間を増やしてほしい。 [3]
- ・ みずほバス 路線は短く主要地だけでも増やしてほしい。
循環型はちょっと…。停留所も位置が…。 [2]

●交通安全

- ・ 21号を横切るにはアンダーパスしかない…。 [2]

●地域コミュニティ

- ・ 子育て世帯の協力性がない。子どもの意見を無視して親都合で入らない。
- ・ 協力の得られない家庭が増えてコミュニティが築けない。
- ・ 子ども会について、加入しないと集団登校できない。
さみしい思いをする子も。

- 網掛けがなされている数値は、他のグループメンバーから「印象的であった」として貼られたシールの数を示しています（以降も同様）。
- 各グループにおいて出された内容の一部について、意味が変わらない範囲で表現を整えています。
- 各グループにおいて出された内容の分類作業については、委託業者にて行われています。

「自慢したくなる瑞穂市、10年後の姿をイメージしてみよう」

福祉、コミュニティ、健康

●地域発展

- ・ 駅ビルを建てては？ [5]
- ・ 娯楽がほしい。 [2]
- ・ 駅前を有効活用して！ [1]
- ・ 土地がある＋高くない。

●公共交通機関

- ・ かきりんバスの本数を増やす。 [2]
- ・ 駅前ロータリー何とかしたい。 [1]
- ・ 車いす、高齢者でも乗りやすいバス。 [1]

●ゴミ問題

- ・ ごみ捨て場が近くにある（遠くまで捨てに行っている現状）。 [1]

●子育て、転入者

- ・ 子育て世帯が入ってくる。
- ・ 転入生の受け入れ体制。
- ・ 細やかなサービス（転入者への）。

●地域医療

- ・ 産婦人科充実してほしい。 [2]
- ・ 地の利が良い→病院にアクセス◎。 [1]
- ・ 医療費無料（18歳まで）。

「自慢したくなる瑞穂市、10年後の姿をイメージしてみよう」

教育（学校・家庭・社会）文化

●地域の発展、活性化

- ・ 起業誘致：巢南 十七条、十八条（託児所付）。 [4]
- ・ 道の駅（カフェ）R21 沿い。 [2]
- ・ 歩道の整備（中学生、小学生の通学路）。 [1]
- ・ 商店街を活性させる。 [1]
- ・ 観光・特産物を増やして外部からの人を増やす。
- ・ 巢南を盛り上げる。いちごの観光農園（カフェ 苺）、サボテン、宿場まつり。

●世代を超えた住民交流

- ・ つながり 親と子、親同士（ママ友）。 [1]
- ・ 給食→食堂にする（地域の人でも利用できる）。 [1]
- ・ 保育所と高齢者施設を隣接させる（交流の場）。 [1]

●伝統

- ・ 伝統 神社、まつり。 [2]
- ・ 祖先（聞く）、歴史（調べる）。
- ・ 昔の仕事（伝える） 農具、作物。
- ・ 祭りの一本化して市として実行。
- ・ 柿の後継者不足
（富有柿ブランド残す）。

●地域の安全環境

- ・ 朝日大学との連携（法教育・スポーツ）を増やす。 [1]
- ・ 道路の整備 歩道と車を分ける。
- ・ 地下道のゴミ 道路のゴミをなくす。
- ・ 街路樹の整備をして治安を良くする。

●子育て、教育

- ・ 図書館（岐阜のメディアコスモスのような）。 [2]
- ・ あそび 昔のあそび、伝える。
- ・ 公園 少ない、都市公園の充実。
- ・ 図書館を充実させてほしい。

朝日大学まちづくりワークショップ

1. 実施概要

(1) 開催日時

令和6年11月2日(土) 午前10時～12時30分

(2) 開催場所

朝日大学6号館 6503講義室

(3) 参加者

市ホームページや大学を通じ参加者を募集し、17名の申込があった。その後、欠席連絡等があり、当日の参加者は16名であった。

(4) 実施項目

- ・事務局挨拶
- ・瑞穂市を取り巻く状況についての説明
- ・市民アンケート結果の説明
- ・レゴブロックを使ったグループワークの実施
- ・レゴブロックで作成されたアウトプットの発表・共有
- ・ワークショップの実施
- ・ワークショップで作成されたアウトプットの発表・共有

2. レゴブロックを使ったグループワークの実施内容

(1) テーマについて

「幸せな暮らし」をレゴブロックで表現しよう

(2) 進行方法について

今回のグループワークにおけるレゴブロックの使い方を説明するとともに、ウォーミングアップを行い、その後、リーダー役を決めてテーマに基づくアウトプットを作成しました。

作成されたアウトプットについては、発表役の方が皆の前で発表、他のグループメンバーは、発表を聴いた後、質問したいことを尋ねる形式としました。

3. レゴブロックを使ったグループワークの実施風景とアウトプット

グループワークの様子①



グループワークの様子②



グループワークの様子③



グループワークの様子④



レゴブロックによるアウトプット発表の様子①



レゴブロックによるアウトプット発表の様子②



「幸せな暮らし」をレゴブロックで表現

グループ①

お腹いっぱい食べれると幸せを感じる。

●食に関して不安を抱えないで生活できる

経済的な余裕があるほうが生活の幅が広がり、潤いがでてる。

犬の散歩をしている人がいると平和を感じる。そこから幸せを表現している。

●普段の何気ない活動、慌てることなく気が向くままに過ごすことが幸せにつながる

ゴミがゴミ箱にきちんと捨ててある。これも幸せだと感じる。

●きれいなまち、秩序あるまちが幸せにつながる

就職をするときに、どのような仕事であるのか、といったことをよく考えずに就職する人が多い。また、過労によって体調を崩す人が多い。やりがいを持って仕事を楽しむ人が幸せである。
●充実した職業生活を送ることが幸せにつながる

- 網掛けがなされている箇所は、発表においてポイントとなったと考えられるところ（コーディネータが判断）を指します。
- ●印の文章は、コーディネータがグループとのやり取りを通じて読み取れると考えられる内容を示しています。
- 以降のアウトプットも同様の表記がなされています。

「幸せな暮らし」をレゴブロックで表現

グループ②

自然との関わり（ここでは農業）を示している。

- 自分でつくる喜び
- 自然との関わりのある生活



森林伐採、密漁などで自然が壊されている。最近では地球温暖化が進んできている。

人だけではなくて、自然が豊かであることが大切である。

- 持続可能な地域づくり

人形が虫眼鏡を持っている意味は、他の人を色眼鏡で判断しないようにすることである。差別・偏見は人間関係を壊してしまうことにつながる。

- 互いが多様性について理解して関わり合う

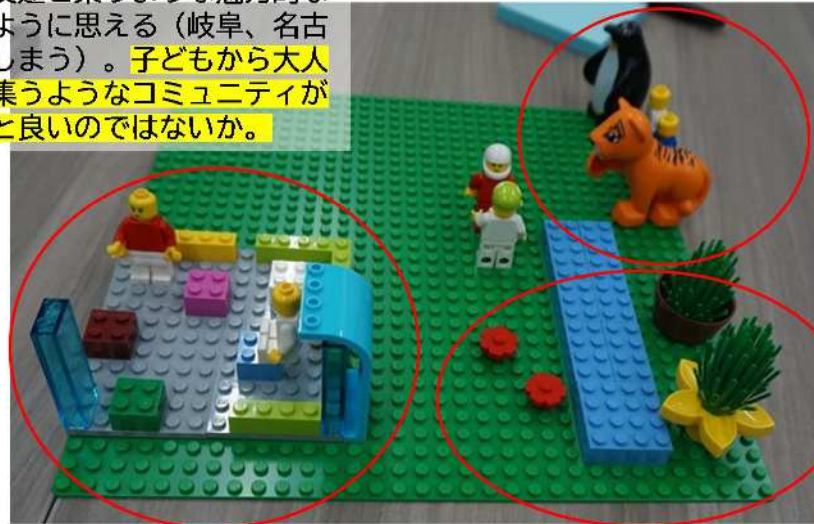
休みの日にゴロゴロしたりと、何気ないことを行うことができることが幸せである。

- 幸せは、何か特別なことをして実現させていくものではない。幸せの素は常に身近にある

「幸せな暮らし」をレゴブロックで表現

グループ③

瑞穂市には友達と集うような魅力的な場所がないように思える（岐阜、名古屋に行ってしまう）。子どもから大人まで、人が集うようなコミュニティがつくられると良いのではないかな。



瑞穂市には、公園、カフェといった人が集まるところが少ないので、人々の憩いの場となるようなスポットがほしい。

動物と人が一緒に暮らせることは、小さな幸せを得ることにつながるのではないかな。

●小さな幸せが積み重なっていくことで大きな幸せにつながる

自然環境が豊かであることは、人間関係が良好になったり、より良い暮らしにつながる。

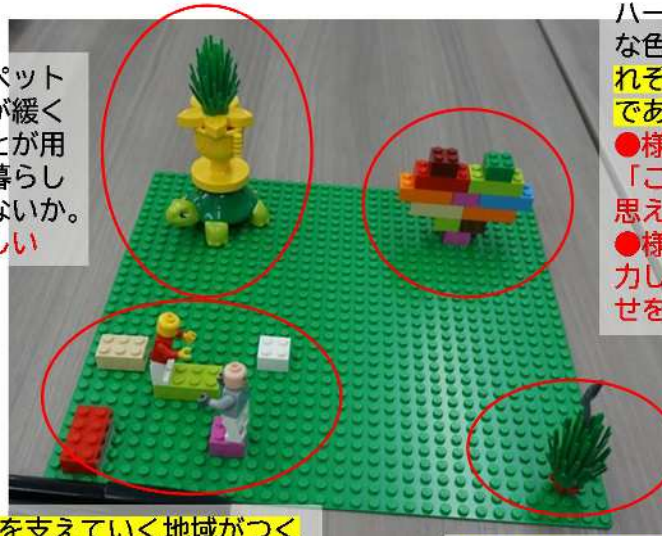
●心が穏やかになる環境が近くにあることが望ましい

「幸せな暮らし」をレゴブロックで表現

グループ④

アパートやマンションでペットが禁止になっている規制が緩くなると、ペットを飼うことが用意になり、人々の幸せな暮らしの実現につながるのではないかな。

●心を通わせる対象がほしい



大人が子どもたちを支えていく地域がつくられていけば幸せにつながる（大人たちがトラブルを起こしていると、そこから遠ざかってしまう）

●子どもが活き活きと育つ環境を大人が力を合わせてつくる

まちに住みやすくなったことで、自分達の気持ちが幸せになっていく→ハートの形

ハートをつくるブロックに様々な色が使われているのは、人それぞれ幸せの感じ方が違うからである。

●様々な価値観を持つ市民が「ここに住んで良かったな」と思えるようなまち

●様々な価値観を持つ市民が協力し合いながら、皆が感じる幸せを作り上げていく

公園とかに花や木といった植物を植えて、自分達で育てていく。こうした植物を眺めることで気持ちを落ち着かせることができる。

●皆で地域のため自分達のための何かをつくるコミュニティの存在

4. ワークショップの実施内容

(1) テーマについて

ワークショップでは、4名で構成された4つのグループにおいて、それぞれ割り当てられたテーマに即して意見が出されました。具体的なテーマは以下のとおりです。

■グループ1

10年後でも住みたくなるまちにするために

—安心、快適な生活ができるまちにするにはどうするか—

■グループ2

10年後でも住みたくなるまちにするために

—まちが賑わうためにはどうするか—

■グループ3

10年後でも住みたくなるまちにするために

—子どもが健やかに育ち、生涯にわたって生き活きと

過ごせるまちにするにはどうするか（子どもから大人まで）—

■グループ4

10年後でも住みたくなるまちにするために

—子どもが健やかに育ち、生涯にわたって生き活きと

過ごせるまちにするにはどうするか（大人から高齢者まで）—

(2) 進行方法について

ワークショップでは、リーダー役、書記役を決め、リーダーによる進行のもと、付箋紙及び模造紙を使いながらアウトプットを作成しました。

また、作成されたアウトプットをもとに、ワールドカフェ形式[※]で、他のグループメンバーから新たな意見を出してもらうというやり取りを行いました。

最終的には、他のグループのアウトプットについて、印象的であった内容に丸型のシールを貼り付けてもらいました（各グループのアウトプットにつき、一人あたり2枚ずつ貼ることができるルールとしました）。

[※]各グループにおいて、オーナーを1名決め、オーナーはその場に残り、他のメンバーは隣のグループに移動する。オーナーは、これまでどのような意見が出されたのかを訪問者に簡単に説明し、他の意見があれば訪問者に出してもらう。一定時間が経過した段階で終了の合図があり、訪問者は、さらに隣のグループに移動する。移動したメンバーが自身のグループに戻るまで同じことを繰り返す。

5. ワークショップの実施風景とアウトプット

ワークショップの様子①



ワークショップの様子②



ワークショップの様子③



ワークショップの様子④



10年後でも住みたくなるまちにするために まちが賑わうためにはどうするか

●地域のコミュニティ

- ・老若男女が集まれる広場をつくる。 [1]
- ・みんなが利用できるコミュニティサイトをつくる。

●子どもの遊び場

- ・子どもが遊べるところを増やす。 [3]

●環境

- ・川を中心に道路や公園などをつくる。 [1]
- ・川の保全とベンチなどの休憩できる場所を増やす。

●誰でもわかりやすい支援、仕組み

- ・外国人に向けたサポート（例 ゴミの回収の案内が英訳されている）。 [6]
- ・避難案内市役所などの連絡方法がメールなどである。 [3]
- ・市役所に英語ができる職員を配置する。 [1]

●地域活動

- ・イベントなどの情報を広報から活発に使い知らせる。 [5]
- ・瑞穂市にある企業のビジネスサポートを行う。 [3]
- ・駅前の噴水を季節ごろに飾り付ける。 [1]
- ・瑞穂市の特産品などを使ったプロモーション活動を行う。
- ・有名スポットを作る。
- ・季節ごとのイベントを行う。

- 網掛けがなされている数値は、他のグループメンバーから「印象的であった」として貼られたシールの数を示しています（以降も同様）。
- 各グループにおいて出された内容の一部について、意味が変わらない範囲で表現を整えています。
- 各グループにおいて出された内容の分類作業については、委託業者にて行われています。

10年後でも住みたくなるまちにするために

安心、快適な生活ができるまちにするにはどうするか

●案内表示

- ・ 英語の翻訳を増やす→大学があるから。 [6]
- ・ 誰でもわかる標識や案内板（国籍・年齢など）。 [2]

●防犯対策

- ・ 道が暗すぎる街灯を増やす。 [5]
- ・ 大きい道以外の街灯をもっと明るくして安全にする。
- ・ 小・中学生の下校時間に見回りの強化をする。
- ・ 駅以外の普通の道でも防犯カメラを設置する。

●交通安全

- ・ 交通事故がおこらないように、車道と歩道を整備する。 [3]
- ・ 夜、車やバイクがうるさくならないように見回りを強化する。 [2]
- ・ 家がたくさんあるため、カーブミラーを増やせば死角がなくなり事故が減る。 [1]
- ・ 街路樹が歩道を侵食しているので、草木を切る。 [1]
- ・ 自転車が車道を走りずらいので、道を車、自転車、歩行者に分ける。

●災害対策

- ・ 冠水しない安全な道路整備をする。

●ゴミ問題

- ・ 道にゴミ箱を置けば、ポイ捨てが減る。 [4]
- ・ 大学前のコンビニの前などゴミが多いので、ゴミを自分で捨てる社会にする。
- ・ 川の近くにゴミを捨てる人がいる→防犯カメラ。

10年後でも住みたくなるまちにするために

子どもが健やかに育ち、生涯にわたって生き活きと 過ごせるまちにするにはどうするか（子どもから大人まで）

●教育支援、子どものキャリア支援

- ・ 教え合いができるスペースをつくる。 [2]
- ・ 働ける業種をもっと増やす。 [2]
- ・ 子ども同士の繋がりを深くする。 [1]
- ・ 奨学金の拡充させる。 [1]
- ・ 学習支援を拡充させる。 [1]

●遊び場、コミュニティ環境

- ・ アミューズメントパークをつくる。 [4]
- ・ スーパーをつくる。 [1]
- ・ 映画館をつくる。 [1]
- ・ 駄菓子屋を増やす。

●公園

- ・ 遊具のバリエーションを増やす。 [1]
- ・ 公園でゲーム感覚で体を動かせる施設をつくる。 [1]
- ・ 球技禁止を解除する。
- ・ 公園など気軽に遊べる場所を各地域につくる。

●子育て支援

- ・ ベビーカーが通しやすいスロープなどをつくる。 [6]
- ・ 育児相談や親子教室といった支援体制を構築する。 [1]
- ・ 公共交通機関で親子専用スペースをつくる。 [1]

●子どもの安全

- ・ 登下校に使う道をより一層整備する。 [1]
- ・ 警察官の人数を増やすなど地域の治安をよくする。

10年後でも住みたくなるまちにするために

子どもが健やかに育ち、生涯にわたって生き活きと
過ごせるまちにするにはどうするか（大人から高齢者まで）

●買い物

- ・深夜でも買い物できるお店があればいい。

●公共交通機関

- ・バス停を増やす。 [10]
- ・公共交通機関の利用が増えるように利用しやすくする。 [2]

●余暇活動

- ・子どもだけではなく大人でも遊べる公園があるといい。 [2]
- ・誰でも遊べる場所をつくる。
- ・お年寄りが集まって生き活きとコミュニケーションができる場所を増やす。

●誰でも住みやすいサポート

- ・外国人を対応するところがある。
- ・健康について相談できるような場所や窓口をつくる。

●就労環境

- ・違った仕事を増やすことで、自分がやりたい仕事を見つけることができる。 [10]
- ・賃金を上げることで、町にお金が回りがやすくなる。
- ・休みを増やして暮らしやすくする。

みずほ未来プロジェクト中間発表

1. 実施概要

(1) 開催日時

令和6年10月28日(月) 午後3時30分～午後4時30分

(2) 開催場所

オンラインにて実施

(3) 参加者

巢南中学校

穂積北中学校

穂積中学校

(4) 実施項目

- ・みずほ未来プロジェクト中間発表
(各校10分程度、質疑応答含む)
- ・指導助言等
- ・学校より質問等
- ・今後の見通し

2. 各校の参加者において関心が持たれている事項

■巢南中学校

- 「防災」を中心に、誰もが幸せに暮らせる街にすると考え探究活動をしていきたい。誰もが幸せに暮らすためには、まずは安心、安全に暮らせる環境を作ることである。
- ・災害について、地震、水害、南海トラフ巨大地震の巢南地区の被害予想をした。
- ・まずは自分の命、家の耐震性や防御性を上げて自分の家の安全性を高め自分の家で避難生活をする事ができる。
- ・地震が起きて、水道やガス、電気などの生活に欠かせない物が使えなくなったとき、必要な水の量や非常用トイレなどもしものときの備えについて、客観的に自分事として考えることができた。
- ・今年の豪雨災害で、同じ年の子が亡くなったことを知り、他人事ではないと実感した。災害対策をしていない家族が多かったことも分かり、事前に備えておくことの大切さを

発信していきたい。

- ・瑞穂市の川が氾濫したときは、真っ先に高いところに逃げるのが大切だと考えた。しかしながら、氾濫してからでは遅いことを仲間との交流で気づいた。どのタイミングでどこに避難するのが良いのかについて、これから勉強していきたい。

■穂積北中学校

- 「お金」について、瑞穂市は岐阜県の中では年収が多いが都心より年収が少ない。物価は安い。また、瑞穂市の出産手当の額は全国に比べて多く、出生率も高いため、幸福度は全国よりも高いと考えた。
- 「差別」について、人種差別、LGBTQ、障がい者に対して、決して否定してはいけない。まず私たちから多様性を理解して同じように接することが大事だと思った。
- 「災害」について、様々な災害時に対応できるように備えることが大事である。
 - ・災害時に人権侵害（情報不足、避難所のプライバシー侵害、誹謗中傷、嫌がらせ等）の解決策を考えた。
- 多様性、価値観について、価値観の違いは対立の原因になる。自分の意見だけを押し通そうとせずに、相手の意見を受け入れることで新しい発見になる。全員のことをみんなで認め合うことが大事だと思った。
- 「教育」について、子どもや先生の人権が守られているかという視点で考えた。
 - ・校則は今の時代に合っているのか？自分たちの人権は守られているのか？例えば、頭髪や座る時に体操座りのルールについて、様々な意見があった。
 - ・特別学級（アジサイスクール）では個人に合わせた学びの環境が工夫されている。
 - ・学年問わずクラブ活動をすることで、様々な人間関係をつくることができる。
 - ・教員の人権について、働き方改革など教師の仕事が大変であるとニュースで報道されている。勤務時間を減らしたり、休みを増やしたほうが良いと思う。

■穂積中学校

- 食品ロスなど身近な現状や課題から、「環境」をテーマに活動したい。
- 「交通安全」に関してヒヤリとした経験があった。交通安全の意識向上について、市民の皆さんへのプレゼンテーション、ポスター作成などして発信していきたい。
- 瑞穂市は、水がきれい、自然豊か、地域活動が多いところが良い点だと思う。一方、食品ロス、ゴミ箱が少ない、ポイ捨てが多いという課題がある。SDGsにおける12番目「つくる責任 つかう責任」を目標とした。
 - ・削減レシピ集、ゴミの調査、ゴミ拾い、まだ使えるものの修復、など自分たちがやれることをどんどんやっていきたい。
 - ・ポイ捨て、ゴミを減らすために、地域の方たちと関わりボランティア活動をする。ゴミ拾いやポスターを貼る、また動画撮影、啓発活動等を行うことを考えている。

- 「公共施設（穂積駅）」について、交通の手段や施設が少ないことに課題を強く感じている。また、子どもの遊び場がほとんどないが調べてみると、身近な場所に公園があったり、中学生が知らないであろう様々な施設があることが分かった。瑞穂市や公共施設の魅力を知ってほしい。
- ・ クラスの4割の生徒がバスの存在を知っていたが、実際に使用していない結果がわかった。まずは自分たちが理解し、小中学生向けのバス利用ガイドブックの作成やウォークラリーの提案をしていきたい。
- 川や道路にいつも「ゴミ」が落ちている、8割の人が分別していない。3R（リデュース・リユース・リサイクル）を意識して、いつでも川や道路がきれいな瑞穂市にしたい。掃除活動している方、警察、役所の方などから話を聞き、危険箇所やその原因を探り、啓発活動をする。市内の小中学校に行き、気を付けることなどについて話をして、意識の共有をしていきたいと考えている。また、動画やポスター制作をしたい。
- ・ 落ちているゴミを減らすためのポスター作りやゴミを減らす大会の提案をしたいと考えている。主に小中学生やその保護者に向けて指導していきたい。
- ・ ポイ捨ての現状把握、自治会長や教育委員会、市役所の方などから話を聞くためのインタビューを計画している。実際に私たちのまちを運営してくださっている方々の思いを聞くことで、さらに自分たちの考えを深められると思った。
- ・ 家庭のゴミの量や種類の調査を行い、ゴミを減らすために、普段の生活を見直す提言をしたい。これは、ゴミそのものを減らしていくこと、リユースに繋がっていく。
- ・ リサイクルイベントを開き、牛乳パックや新聞紙等のリサイクルできるものや、リユースできる物を回収し、リサイクル会社に出すことやNPO法人などに寄付したい。